

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

□2023年度通常総会のご報告・

新任理事ご挨拶……………1P

□会員交流会……………2-3P

□サポちたインフォメーション……………4P

第23回 通常総会ご報告・新任理事ご挨拶

■2023年度通常総会のご報告

5月30日知多市市民活動センターにて、正会員出席15名、委任状22名（2023年3月末現在正会員56名）のご協力の下に通常総会を開催、全ての審議事項が承認されました。組織体制は、重任した理事・監事に事務局長・事務局次長の2名が加わりました。より一層、組織強化を図ってまいります。また、理事互選の結果、代表理事 市野恵、副代表理事 出口晋（ゆめじろう理事長）、山崎紀恵子（絆代表理事）、常務理事 渡邊千恵（りんりん理事長）、土肥りさ（PakaPaka事務局長）が就任したことをご報告申し上げます。引き続き、よろしくお願い申し上げます。なお、2022年度事業報告は、当法人HP（下記URL）をご参照ください。代表理事 市野恵
<https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/dantai/annualreport/2022.pdf>

■新任理事のご挨拶

サポートちたと出会い10年が経ちました。私の人生感が大きく変わった10年でもありました。本当の自立とは困ったときに「助けて」と声をあげられることだと気付かせてもらい、こうした声を受け止められる地域をつくるため「自分たちが暮らすまちの課題は自分たちで解決していこう」と自ら声をあげ活動している人たちと出会い、その行動力と人としての温かさに、感動と多くの刺激をもらいました。また、二人の息子たちを子育てしている中で「頼る力」や「困ったときはお互いさま」の知多地域で継承されてきた思いは、大切な指針にもなりました。多くの学びや気づきをたくさん経験させていただき、もともと私は消極的な性格でしたが、人として成長させてもらえた10年だと感じています。

今年度から理事として組織運営に関わる役割に就かせていただき、資格も何もない自分に何ができるのかを考える日々ですが、まだまだこれからも成長できるよう、また中間支援として「市民性」を大切にしながら、自分自身が学ばせてもらった知多地域の多くの活動にお役に立てるよう精進したいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。



事務局長・理事 安藤千栄子

サポートちたで仕事を始めて、12年が経ちました。幼稚園に通っていた息子が、高校3年生になり、来春社会人になる予定です。家庭で子育てをしていた時期は、社会との接点がなく、人とのコミュニケーションの取り方も忘れていたほどです。仕事をさせていただく中で、たくさんの方々との出会いや多くの価値観に触れ、育てられ、今の私があるように思います。

地域福祉などの社会課題は大きく変容し、今後もそれらの課題に向き合っていく上で、私ができることはほんの一握りかもしれませんが、目の前にある課題に取り組んでいけたらと思います。まだまだ未熟な私ですが、常にアンテナを張り、中間支援組織としてつなぐ役割をしっかりと担っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



事務局次長・理事 山森英津子

■サポートちた会員交流会

今年度は、日本福祉大学の藤井渉先生と両角達平先生をお招きし、サービスマーケティングでNPOに期待することをお話いただき、25名の参加者とともに意見交換を行いました。

毎年、事務局には、学生を受け入れるにあたってのご意見や不安の声が届いております。新体制となって改めて、サービスマーケティングの意義を学び、活動前に意見を共有することで、少しでも不安を解消していただき、新たな学生を受け入れる参考にしていただけるよう企画しました。ご都合によりご参加いただけなかった受け入れNPOの皆様、会員の皆様へ、本紙にてご報告いたします。(山森)

自己紹介(藤井渉先生)

私は『戦争と障害者』や『戦争と福祉』などをテーマに、20年以上研究しています。全国の図書館やドイツの図書館へ行き、研究資料をとにかく見て、読んでいくことをしています。昔の難しい漢字を解説しながら昔の人の想いや、戦争に巻き込まれていった障害者の想いを考えながら、それを文章にしていくということを20年間やってきました。このような活動は、僕自身の中でもNPOというの存在が欠かせないです。



藤井渉先生(オンライン参加)

サービスマーケティングに期待すること

元々、障害者の方々の旅を支援するNPO活動をしていました。NPOの現場に身を置き、色々なニーズに気付いてそれに応えていくという、ひたすら地道なことですが、それ以上にすごく面白さがありました。その面白さには、三つのことがあったと思っています。一つ目は、現場や活動に入っていくとご高齢の方や障害のある方と出会ったり、人生の場面に会うような機会に繋がっていくと思います。今の学生は恐らく核家族化していて、そういった方と会う機会がなく、人間関係の交流の場に身を置くことによって気付きや学びが大きな刺激になっていくと思います。

二つ目に、私自身が旅の支援をする中で、年上のパートナーとたくさん喧嘩をしました。人が集まる場では、ミスやトラブルがあるのは常

だと思っていて、市民社会で生きることは、一般的な常識も含めて色々な形で責任を引き受けるべき場でもあると思います。市民社会に触れ合うということは、学生自身も社会に対する責任を学ぶ機会になってくるのかと思います。

三つ目は、価値観がすごく変わったことが私の大きな気付きでした。旅行支援で、全盲の方とスイスに行った際、どう楽しむのかなど疑問に思っていたのですが、「藤井君、空気美味しいね」とか、写真を撮る代わりに、テープレコーダーでガイドの音声や僕の声などを録音して、記憶に留めるということをして楽しんでいました。そのような市民活動の場に触れ合うことで価値観が変わり、新しい価値観を創っていく場でもあると思います。学生には、色々な気付きの場、学びの場、参加の場という機会になればと思っています。色々ご迷惑をお掛けすると思いますが、何卒よろしく願いいたします。

自己紹介(両角達平先生)

私は長野県出身で、中・高生時代にユースセンターという若者が自由に集まる場所に通っていました。大学では色々な学生団体の活動をしていました。学生の時からNPO法人の理事としても活動しており、東京の方で、18歳選挙権の引き下げをするNPO法人Rightsにて活動していました。また、ヨーロッパへ留学する機会をいただく中で、スウェーデンやドイツで見えたことを色々発信することをしてきました。私の中で「なぜ若者にとってこんなに社会は遠く、参画するのは難しいのだろう」という問題意識があり、政治参加や教育のことを研究していました。中でも、若者の選挙投票率が85%あるスウェーデンと日本を比べて、なぜこんなに差があるのかということに疑問をもち、その理由を研究しています。



両角達平先生(会場参加)

サービスマーケティングに期待すること

一昨年、私が客員研究として現在も所属する国立青少年教育振興機構では、高校生を対象に、社会参画の意識調査をしました。日本の若者は、学校内では部活やサークル活動などの公

的な活動をとともよくするという結果が出ました。ただ、学校外になると、それがエンターテインメントや私生活やアルバイトなどに大きく振れ、公共性への意識が若干薄れていることが明らかになりました。それは、民主主義を体験する、市民社会を感じる機会が少ないことが原因かもしれません。

サービ斯拉ーニングに期待することとして、この「公共性」を感じてもらうことが一つあると思います。私は、それを「越境の経験」だと思っています。地域へ行かない学生にとって、普段の生活圏を超えるような機会は、とても良い第一歩になると思っています。大学生のコミュニティは同質性が高く、価値観も狭いです。サークル活動やSNSも自分が好きなものしか選択しないので、自分たちの生活世界から引き出してあげるといことが非常に重要になると思っています。

専門家であり支援者であり活動家である現場の皆さんには、学生に教えるというよりは、一人の地域の人間として、自分は社会について世の中についてこう思っているよ、ということをつらつら見せ、語る姿を見せていく関わりをお願いしたいと思います。今の若者は、当たり障りのない言動をするので表面的な印象はいいのですが、その反面、ブレーキをかけがちなので踏み込んだところへ連れ出しにくいのです。その時に、いかに背中を押せるかが、とても重要になってくると思います。責任を持って担っていく、意思決定を学生に任せてもらうということが非常に重要になってくると思います。

意見交換での意見

- ・地元の子ども会解散に対して問題意識を持つNPOスタッフの話し合いの場に学生が同席したことで、問題意識を持っている地域の人がいるということに触れ合うことがサービ斯拉ーニングだと思っている。

- ・学生の書く力と話す力にギャップを感じる。実習記録を出してもらった時に、すごい内容が書かれていて、それを見た職員が返答に困ることがあった。活動期間が短いので、職員が仕事をしている姿を背中で見せていくというのは難しい。

- ・アイデアをたくさん出す積極的な学生と、後ろから様子を伺う消極的な学生もいるが、一人一人の学生に向き合い、活動前後でどういう変

化があったのか、個々の成長を観ていきたい。

- ・学生同士でコミュニケーションがとれていない。コロナの影響もあって、対面での関係性を



参加者との意見交換の様子

築く前に活動に入り、その場でどうしようかと迷っている場面があった。また、今の学生は、時間とお金に余裕がないように感じる。

- ・「サービ斯拉ーニングと実習は違う」という捉え方が難しい。受け入れ側は学生に期待してしまう。実習の感覚にならないようにこちらも気を付けないといけない。今日の話を受けて、組織内で少しずつ落とし込んでいけるとよい。

まとめ

市民活動の場として参加をするのがサービ斯拉ーニングだと思います。学生自身の生活もあり、大変なところもありますが、生活の中で活動をどう位置付けてやっていくのかを、都度勉強する場として考えていけたらなと考えています。（藤井渉先生）

先ほど（会場の意見から）出ていた、「書き言葉と話し言葉のギャップがある」という話にも関係しますが、今の学生は、書く作業をこなすことは得意ですが、話してみるとズレがあります。そのズレが一致していくことが、民主的なコミュニケーションにおいて大事だと思います。心（考え）と体（言動）が一致しているNPOの皆さんのように、自分の本来の姿のまま社会に参画できる感覚を、学生が持てるようになっていくことがすごく大事だと思います。（両角達平先生）

サービ斯拉ーニング年間予定

| | |
|-----------|----------------|
| 6月～7月 | 活動計画の立案 |
| 8月上旬～9月上旬 | 各NPOでの活動・5日間 |
| 9月 | 活動のリフレクション |
| 10月～12月 | 活動をもとにした研究を実施 |
| 10月14日(土) | 活動報告会 |
| 2024年2月予定 | 受入団体交流会 ※当法人主催 |

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せください。

■ソニー音楽財団 第5回 子ども音楽基金

ソニー音楽財団はこれまでに、音楽に触れる機会の少ない地域での子どものための演奏会や、病児・障がい児を対象とした楽器体験、児童養護施設での継続的な音楽療法のほか、ひとり親家庭やさまざまな国籍の子どもたちへの音楽教育等、多種多様な活動を対象に助成を行う。
〈対象〉・日本国内の18歳未満の子どもを対象に、クラシック音楽およびそれに準ずる音楽を通じた、教育活動に取り組んでいる国内の団体およびその活動。

・法人格を有する非営利団体。また法人格を有しないが、活動するための体制が整っている団体およびその活動。

〈助成金額〉 1団体につき10万円～300万円/年度

〈応募締切〉 7月18日(火)17:00必着

〈申込方法〉 <https://www.smf.or.jp/kok/application/>

■会員サロン「住民の参加を促すNPOの役割」

地域の防災・減災、孤独・孤立、少子・高齢化など、地域コミュニティが抱える課題は、行政施策だけで解決できるものでもなく、地域住民の主体的な参加による「自治」が期待されている。しかし、「住民参加」となっているものの、実際は「動員参加」によって、維持されているものもある。そこで今回は、「住民の参加促すNPOの役割～動員参加にならないために～」をテーマに、ゲストスピーカーの(N)フェリスモンテ理事・事務局長の隅田耕史さんからお話を伺い、地域コミュニティの中での住民参加の価値について、皆さんとの議論を通じて、地域コミュニティにおける住民参加をめぐる問題意識を共有する。

〈日時〉 2023年7月7日(金)13:30-15:00

〈開催方法〉 オンライン(Zoomミーティング)

〈対象〉 日本NPOセンターの会員

〈主催〉 NPO法人日本NPOセンター (担当:長瀬)

〈申込方法〉 下記リンク内フォーム参照

<https://www.jnpoc.ne.jp/?p=28041>

※本サロンは会員限定のため、参加には予め日本NPOセンターへ入会申込み(下記URL参照)をお願いします。

https://www.jnpoc.ne.jp/?page_id=603

■就労継続支援B型うらら 利用者募集

就労継続支援B型うららでは、精神、身体、知的などの障害をもつ成人を対象に就労の機会を提供している。具体的には野菜のパッキング、シール貼りなどの内職、農業、公園清掃、公衆トイレ清掃などの職業訓練を日々行っている。彼らが社会から孤立せず、また社会に参加できるよう、ビーチクリーン活動やランプシェードイベント開催、花見、カラオケ、レジャー施設等の自然豊かな場所へ出掛け、今日一日が楽しかったと思える環境を整えている。利用のご相談は、下記問合せ先にて随時受付中。

〈問合せ〉 一般社団法人 oneness

就労継続支援B型事業所うらら(海空)

住所: 南知多町大字内海字西郷2-1

電話: 0569-89-8431 担当: 磯部、山本

■高校生のための介拓奨学生募集

高校生のための介護職員初任者研修受講者募集中!

〈参加〉 受講料無料、研修等に必要の交通費は全額支給

〈場所〉 愛知県内の介護福祉事業所等

〈日程〉 2023年7月8日(土)キックオフ、7月24日(月)研修開始

※夏休み期間で17日程度

〈参加資格〉 高校生(学年不問)

〈主催〉 介拓プロジェクト実行委員会

〈後援〉 日本福祉大学

〈申込/問合せ〉 地域福祉サポートちた 山森

■サポートちた会員情報 (2023年6月20日現在)

| | 団体 | 個人 | 合計 |
|------|----|----|----|
| 正会員 | 29 | 29 | 58 |
| 準会員 | 23 | 30 | 53 |
| 拠点会員 | 14 | — | 14 |

新規ご入会、ありがとうございます!

【正会員/団体】 社会福祉法人成仁会 様

【正会員/個人】 森智史 様

【準会員/個人】 白尾久美子 様

【準会員/個人】 上山崎悦代 様



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◇◆入会・寄付について◆◇
活動や組織の基盤となる資金を、会員みなさまからの会費やご寄付で支えていただいております。団体の理念や事業に賛同していただき、ご支援ください。

【年会費】

○正会員/ (団体) 15,000円 (個人) 5,000円

○準会員/ (団体) 5,000円 (個人) 3,000円

【振込先】

三菱UFJ銀行 知多支店 (普) 1413965

特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた